

令和 7 年度第 1 回 鳥取支部評議会の概要報告

開 催 日	令和 7 年 7 月 22 日 火曜日 午後 1 時 30 分から 3 時 30 分
開 催 場 所	協会けんぽ鳥取支部 会議室
出 席 者	遠藤評議員、懸樋評議員、北村評議員、小山評議員、土居評議員 野川評議員（議長）、松本評議員、向井評議員、盛田評議員【五十音順】
議 題	1 令和 6 年度 決算報告について 2 令和 6 年度 事業報告について 3 その他
議 事 概 要 (主な意見等)	○議題 1 令和 6 年度 決算報告について 資料に基づき事務局より説明 資料 1 令和 6 年度 財務諸表 資料 2 令和 6 年度 決算報告書 資料 3 令和 6 年度 全国健康保険協会（健康保険）決算報告書の概要 資料 4 協会けんぽの 2024（R6）年度決算見込み（医療分）について〔概要〕 資料 5 協会けんぽの 2024（R6）年度決算見込み（医療分）について 資料 5－1 協会けんぽ鳥取支部の適用・保険給付費の推移 資料 6 協会けんぽ鳥取支部令和 6 年度収支 【学識経験者】 法定準備金が積みあがっており、将来的に不測の事態に備えなければならないことは説明いただき納得しているが、毎年増え続けている中、どの程度必要か目安はあるか。また、それを超えた場合は、保険料率の引き下げ等還元されることは将来的にあるか。 【事務局】 法定準備金は保険給付費等の 1 カ月分相当とされており、8,856 億円は積み上げなければならない。現在 6.6 か月分まで積みあがっているが、被保険者の負担をこれ以上増やさないため、中長期的に平均保険料率を 10%に維持していくため必要であると考えている。 【学識経験者】

準備金が 6.6 か月分積みあがっている中、その額の妥当性や保険料率の引き下げについても検討いただきたい。

【事業主代表】

現時点では適用拡大により被保険者数は増加し、標準報酬月額も賃上げにより増加しているが、少子化に伴い、将来的に少ない被保険者で多くの高齢者を支えていかなければならず、保険料収入も減っていくのではないかと危惧しており、今後のシミュレーションが不安である。

【事務局】

今後のシミュレーションは第 2 回評議会にてお示しする予定である。被保険者数や報酬の増加もいずれ頭打ちになるかもしれない中、支出をいかに減らしていくかが大事であると認識している。

【事業主代表】

今般の参院選でも、社会保険料の引き下げについて言及する政党もあり、社会保険料の見直しをしていただかないと、社保倒産といった言葉もあるように、中小零細企業は疲弊していくことが起ころうとしている。賃金は上げ、社会保険料率は維持し、企業として負担が多くなる中、このまま準備金は積み上げ続けるのか。社会保険料の見直しという言葉に敏感になっているのが今の我々だということを理解いただきたい。

【被保険者代表】

準備金残高の額の大きさにスポットが当たっているが、どういう場面でいくら必要か色分けされると必要性を理解しやすく、議論を深めることができるので、次回シミュレーションを示してほしい。

【事業主代表】

評議員になって以降、準備金が積み上がり続けているのを見ており、シミュレーションによると将来的に準備金を取り崩していく内容であったが、経営者の視点からいうと、準備金はどれだけあっても足りないというマインドになっている。制度設計された当初とは、人口構造や平均寿命の延伸等環境が変化しており、根本的にこのままという訳にはいかないはずである。制度や仕組みの見直しは、協会けんぽまたは国が行うのか、評議会でも議論しても意味がないことなのか分りかねるが、誰が主導するのか。

【事務局】

制度等の設計については、今後の社会情勢及び協会けんぽの財政状況等を踏まえたうえで国において検討していくものとする。

○議題 2 令和 6 年度 事業報告について

資料に基づき事務局より説明

資料 7 令和 6 年度 事業実績報告について

【被保険者代表】

マイナ保険証の利用促進について、医療機関から患者にマイナ保険証の利用を働きかけてもらえれば切り替えも進んでいくと思われるが、鳥取支部は医療機関へ広報依頼を行っているか。

【事務局】

鳥取支部では加入者や事業所に向け広報を実施しているが、医療機関への広報依頼は実施していない。

【学識経験者】

医療機関から患者に対して、マイナ保険証利用のメリットについてもあわせて説明してもらえれば、利用率は更に上がっていくと思われる。

【被保険者代表】

健診受診月から 10 か月以内に医療機関を受診した者の割合について、鳥取支部の結果は全国平均を下回っているが、原因が分かれば教えてほしい。

【事務局】

令和 5 年度までは受診勧奨後 3 か月の医療機関受診率で算出しており、鳥取支部は全国平均を上回っていた。令和 6 年度からは健診受診後 10 か月以内の受診率で KPI を算出することとなった結果、全国平均 33.9%に対し、鳥取支部は 31.4%と大きく下回った。鳥取支部は他支部よりも、勧奨前に自ら医療機関を受診する者が少なく、また、毎年勧奨を実施している者（リピーター）が多いことが原因ではないかと推察される。今年度の取組みとして、正月明けに通知を発送し、1 年の目標として健康づくりを意識してもらい、受診を促すことができればと検討している。

【被保険者代表】

健康について、基準はどのように判断するのか。例えば健診結果で血圧等の数値が基準より良ければ健康というのか。

【事務局】

この数値の間であれば基準範囲内というように、検査項目毎に基準値が設定されており、基準

内に収まっていれば数値上問題ないが、外れている場合は、再検査や精密検査の対象ということになる。

【事業主代表】

重症化予防事業についてはリピーターが多く改善が難しいという話があった。我が社でも毎年同じ者が対象となり、その度に話をいただいております、生活習慣が固まってしまった年代に改善の指導をするのは非常に難しいと思う。そこで、小中高の学生を含め、若い世代に対して、肥満や食生活、血液検査等、健康を意識してもらえぬ取り組みをしていくと良いと思うが、現状の取り組みは如何か。

【事務局】

令和8年度より、若年層に対する健康意識の向上を目的として、20、25、30歳を対象に、胃がん、大腸がんの検査項目を除く生活習慣病予防健診を実施していく。また、協会けんぽでは、こどもに対する健康教育を推進しており、本部で小学校高学年向けの教材を作成し、支部にて教材等を使用し集団学習を進めていく方針である。鳥取支部としては、鳥取市と相談しながら関係方面にアプローチしていければと検討している。

【被保険者代表】

職員の超勤時間の増加や年休取得率が低いということが気になっており、超勤削減や年休取得にも力を入れてほしい。

【事務局】

令和6年度の有給取得率が全国ワースト1位であったということで、今年度は有給消化率80%以上になるよう、全職員が年度末までの休暇予定をスケジュール登録し、管理職が取得状況を把握しながら休暇取得の促進を図っているところである。

○議題3 その他

令和6年度食生活アンケート結果の報告について
アンケート集計結果冊子に基づき事務局より説明

【被保険者代表】

栄養バランスの取れた食事のバランスについて、若い人たちはあまり理解していないのかもしれない。年齢を重ねるごとに健康にも気を使い食事でも塩分を控えめにしようとするが、若い方は健康にあまり興味がなく、それが食生活に表れる。

【学識経験者】

アンケート結果冊子をゼミの学生に見せたら欲しいという声が多くあり、特に保健師を目指す学生は、どのような結果が見られたか興味があった模様。本学の学生は同年代と比べ健康意識が高いとは思いますが、それでもカップ麺を食べる生徒はいる。今回は食生活に関するアンケートであったが、今後また企画はあるのか。アンケートの結果もちろん興味はあるが、アンケートに答えることで、回答者が健康について見直すきっかけづくりになるため、大変かとは思いますが定期的に行われるのかをお聞きしたい。何かをしかけたら次回どう変わったか見ることができる。睡眠や運動などにも目を向けてみると良いと思う。

【事務局】

令和元年度に第1回目を実施し、令和6年度は令和元年度と設問は変えず実施したものである。この結果を次にどう繋げていくか議論をしているところで、やり方や中身のリニューアル等も含め皆様にアドバイスいただきながら次回の実施について検討できればと思う。

特記事項	
-------------	--

- | |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・傍聴人：新日本海新聞社記者1名（令和7年7月23日 朝刊に記事掲載）・次回評議会の予定：令和7年10月 |
|---|